

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200342
法人名	医療法人 陽成会
事業所名	グループホームヒロセ ドゥーエ
所在地	愛媛県今治市国分7丁目5番11号
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人を大切にその人の持っている力やその人のペースで生活が送れるよう、職員全員が共通意識を持って、日々研鑽に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今治市内に母体の医療機関があり、事業所のある国分地区で老人保健施設や他のグループホームを運営している。法人として2か所目のグループホームであるため、事業所名の「ドゥーエ」は、イタリア語で「2」という意味であるとして取り入れている。母体病院や訪問看護ステーションなど、24時間体制での医療連携が取れており、急変時にも迅速に対応することができるため利用者や家族は安心感がある。開設1年目の事業所であるが、利用者の希望に応じたのびのびと生活を送る利用者の様子を伺うことができた。職員自身が家族の立場になって考えることで、管理者は客観的視点から見た対応ができるよう職員に指導しており、利用者に尊厳ある対応ができていることは評価することができる。母体法人の実績を活かした運営ができており、今後も事業所独自で地域と繋がりながらサービスの向上を期待できる楽しい事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームヒロセ ドゥーエ

(ユニット名) オリーブ

記入者(管理者)

氏 名 阿部 芳子

評価完了日 平成 26 年 12 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念である「相手を思いやる和の心と誠意を持って接する」を毎日の朝・昼礼時で唱和し、職員間で意識付けをしている。当施設の理念「地域と共にあなたと共に笑顔の暮らし」を掲げ、地域に根ざした笑顔が絶えない生活の場を目指した個別ケアに努めている。 (外部評価) 開設時に職員間で話し合い、事業所独自の理念を作成し各ユニットに掲示し職員間で共有している。毎日の朝礼時等に法人の基本理念と共に唱和している。介護計画やケアは理念を基にして検討や振り返りを行い、日々の実践に繋げている。事業所のある住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域との関わりや個々の役割、趣味等の生活習慣を大切に生き活きと過ごせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭で春と秋に地区の神輿が来訪する等、恒例行事となっている。又日頃から施設周辺の散歩を実施し挨拶を交わしたり、小学校の下校時には「見守り隊」として地域の方との触れ合いを多く持つよう心掛けている。 (外部評価) 事業所は開設1年目であるが、隣接する老人保健施設や同法人のグループホーム等で築いてきた地域との繋がりを活かし交流をしている。日頃から散歩時に地域住民と挨拶や会話を交わしたり、地元に住んでいる家族等がボランティアとして花を活けてくれたりするなど、利用者の日常生活に地域住民との交流がある。地域の小学生との関わりの場を設けるための下校時の見守り隊活動は、利用者の楽しみと同時に地域貢献にも繋がっており、小学生が下校後に事業所へ遊びに来てくれるようになっている。また、地域の文化祭に参加したり、保育園児との交流をしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 関連事業所と連携して、災害時連携等地域住民と行っていく。保育園や小中学校との交流等により理解されるよう活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を定期的開催し、情報・意見交換の場にして いる。又、グループホームでの近況報告や家族・職員アン ケートの実施、集計を行い、サービス向上に活かしている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、婦人 会、市担当者等の参加を得て開催している。会議では活動報 告を行うほか、参加者から率直な質問が出されるなど意見交 換をしたり、災害などの地域情報を得る場としても活用され ている。参加できなかった家族には、家族会等で報告した り、職員には会議録を閲覧させたりしている。会議で出され た地域情報を活かし、外出行事に取り入れるなど運営に反映 することができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に一回の運営推進会議においてケアサービスの取り組 みを報告している。又、参加者からの貴重な意見が聞ける機 会でもあり、日頃より話しやすい環境づくりに努めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や実情 を伝え情報や助言をもらっている。地域包括支援センターと は、気軽に相談できる関係が構築されている。市などの主催 する研修会や地域ケア会議に参加しており、他事業所との情 報交換や交流をするなど、良好な関係を築いている。また、 保健所から発信される情報を活用したり感染症予防対策の研 修へ参加したりするなど、職員のスキル向上や運営に活かし ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会に参加し、職員全員が指定基準を共有でき るよう努めており、法人内で連携しながら拘束しないケアを 実施している。利用者が自由で安全に暮らせるよう支援して いる。玄関の施錠は20時～6時までとしている。	
			(外部評価) 法人共通のマニュアルを整備し、職員が拘束の具体的な行為 など正しく理解できるよう勉強会を実施している。事業所の 近くには線路や国道があるため、利用者の安全面を考え各ユ ニット出入り口にテンキーロックを使用しているが利用開始 時に家族に説明し了承を得ている。そのほかは拘束の可能性 がある行為は行っていない。管理者は職員に馴れ馴れしい言 葉づかいを注意し、尊厳を持った支援ができるよう指導して いる。管理者は業務を行う職員の精神面などの状態を察し、 健全なケアが実践できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止についての勉強会を行い、全職員に声を掛け、注意を払っている。今後も更に理解を図り、虐待の防止に努めたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、2名の入居者が成年後見制度を活用しているが制度の理解度は個人差があるのが現状であり、今後の勉強会、カンファレンスを持ち、全職員が理解するように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず2名以上で対応し、十分な話し合いをした上で、利用者様及びご家族様の不安や疑問点を検討し、ご理解、ご納得いただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や毎月の家族会で個々に意見や要望を受けている。家族にはこれに限らず日頃の面会時にも対応している。また意見箱の設置やアンケートの協力もしていただき、運営に反映している。	
			(外部評価) 家族の面会時や伝達ノートを利用して意見を聞くようにしている。毎月少人数で家族会を開催し情報交換をしているほか、年2回多くの家族の参加のもと家族会を開催している。また、家族アンケートを実施し、満足度や意見、要望を出してもらい話し合いをするなど、管理者は意見を運営に反映させる取り組みをしている。家族から「日頃からなるべく体を動かして欲しい。パッドなどの経費負担の軽減をお願いしたい」などの意見が出され、連絡ノートで共有して話し合うなど、改善できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、全体会及び部署会を行っており、困り事や疑問を放置せず、職員が日頃から自由に発言できるよう、話しやすい環境造りを心掛けている。また、良い提案は現場に反映させている。 (外部評価) 全体会や部署会などで職員は意見を伝えることができる。日頃から管理者は職員の悩みなどの相談に応じたり、希望を取り入れたシフトを組むなど、職員と話しやすい関係づくりをしている。事業所では人事考課制度や資格手当などを採り入れ、職員がやりがいを持ちながら働きやすい職場環境の整備に努めている。会議の開催時などには、職員一人ひとりの気付きや運営に関する伝達事項をノートに記録したり会議録を作成したりするなど、話し合われたことを振り返れるようにしている。職員の年齢層は様々であるが職歴などを尊重し合い、職員間で相互に良い所に視点を向けながらサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会等に参加し、職員と意見交換する機会を作っている。又、ホームへ訪問し職員個々の意見も積極的に聞いている。 課業評価にて自己計画、反省として各自が向上心を持って職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外の研修の参加を全職員に促している。職員の力量に合わせて出来る事から取り組み結果をだせるよう遂行させている。又結果を評価しスキルアップとサービス向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的開催される交流会に参加し、情報の交換をすることによって、同業者ならではの悩みの解消につなげている。地域全体でネットワークの構築に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居者様のこれまでの生活や思いを汲み取りながら、入居者様が安心して居心地良く生活する場になるよう、家族様や担当ケアマネジャーと協力し合い、入居者様との良い関係作りに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、ご家族様の要望に耳を傾け、出来る限り、利用者様のご意向に沿ったケアをすると共に、ご家族様から信用いただけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 担当ケアマネージャーとも十分に話し合いを持ち、助言を受けながら入居対象者か検討している。本人様、家族様とも相談し、他のサービス情報も提供できるよう支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 調理、家事等生活面で自発に行動できる場面作りに努めている。一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や面会時、ホームでの生活状況や本人さんが希望されている事など伝え、家族との絆を大切にしながら、本人に教えてもらったり、助けてもらったりする場面を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者様、ご家族とも相談して馴染みのある方や生活環境に関わられた方は利用者様の趣味を通して、面会の機会を作り関係が途切れないようにしている。	
			(外部評価) 利用開始前に利用者や家族から馴染みの関係を聞き取り、アセスメントシートや気付きシートに記録し、職員は情報を把握している。女性の利用者が多く、これまで培った調理などの家事の生活習慣を継続できるよう支援している。花を育ててくれたりアートフラワーを持ってきてくれる友人がいる利用者もいる。利用者のしたいことはできる限り継続できるよう支援している。また、月2回の外出時などに、馴染みの人と出会い会話を交わすこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関わりが持てるよう外食、ドライブ、レクレーション等を行い、孤立せずコミュニケーションが図れる環境づくりをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様の思いや意向を尊重しコミュニケーションを取りながら寄り添ったケアを心掛けている。 (外部評価) これまでに利用者や家族等から把握した情報はアセスメントシートや気づきシート、連絡ノート等に記録し職員間で情報を共有している。情報を基にして日常生活の中で利用者が何を求めているかを理解できるよう努めている。思いを伝えられない利用者には担当職員が表情やしぐさから察したり、耳が遠い利用者には筆談したりしている。独り言の多い利用者には職員が寄り添い背中をさするなど、利用者が安心できる対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族様やご本人様より情報収集を行い、生活環境やこれまでの暮らしの把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 全職員がユニット内の利用者様の現状把握に努め、生活のリズムを崩さず、一日の流れに沿って暮らしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の気付きシートをケアプランに連動。本人・家族様の意向を伺い、カンファレンスを実施し介護計画と日常ケアの経過観察に努めている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が、日頃の様子や課題を気付きシートや介護記録等に記録し、職員間で情報を共有している。利用者の思いや家族等の意見を踏まえ、利用者一人ひとりの課題や意見、アイデアを職員間で出し合い、担当職員を中心に介護計画を作成している。担当職員は定期的にモニタリングを実施し、介護計画のまとめなど総合評価は各ユニット責任者が実施している。また、職員は介護計画の作成に直接携わることで、計画を十分に理解したケアが実践できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人一人の日常の様子や変化など個別記録に記入し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の老健との交流をし、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の国分寺、網敷天満宮への参拝。保育園の園児との交流。地区の自治会主催の行事にも参加。地域との交流を図ると共に、利用者様が安全で豊かな暮らしができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関との連携も取れており、希望者がいれば定期的な訪 問診療を受けることが出来る。又、24時間緊急体制も確保さ れ、医師からの指示で的確な対応が取れることから、利用者 様の安心感に繋がっている。本人希望のかかりつけ医とも連 携を図り、本人にあった医療が受けれるようにしている。 (外部評価) 入居後に利用者や家族が希望して、母体病院やクリニックを かかりつけ医としている利用者が多い。母体病院とは訪問看 護ステーションなど24時間体制での医療連携が取れており、 急変時にも迅速に対応することができるため利用者や家族は 安心感がある。また、利用者や家族が希望するかかりつけ医 や専門医を家族の協力を得て受診することもでき、歯科との 連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の状態変化が見られた際には記録に残し、職員間で情 報共有し、広瀬クリニック、訪問看護ステーションへ連絡を 取り、指示に従って受診を受けられるよう連携を図ってい る。24時間医療機関との連携体制が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医と連携し必要な情報交換を行い、早期退 院に向けて話し合うと共に、退院後、復帰した場合、利用者 の状態を報告するなど、医療機関との連携をとり、安心して 過ごせるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に説明を行い、本人の意向を伺っている。体調変化が あればその都度、ご家族、ご本人と話し合い方針を共有して いる。又、職員の看取りに対する知識を深める為に勉強会を 実施し、チームケアができるよう体制を整えている。医療機 関との連携を図っていく。 (外部評価) 「看取り介護に関する指針」を整備し、対応できる内容を入 居前に利用者や家族に説明し、意向を確認している。開設1 年目のため事業所での看取り経験はなく、現在重度化してい る利用者はいない。状態の変化に応じて、利用者や家族の意 向を確認し医療関係者や家族と連携しながらチーム体制での 支援に取り組む予定としている。職員は外部研修や母体病院 の勉強会に参加するなど、利用者が重度化した場合に備えて いる。	母体病院等との連携が取れているため、利用者や家族、 職員には安心感があるが、職員は夜間や緊急時など落ち 着いて対応できるか不安があるため、勉強会を重ねて開 催したり看取り経験のある職員を中心に話し合いをし たりするなど、職員の不安の軽減を図ることを期待した い。また、状態の変化に応じて、医師を交えて利用者や 家族等と話し合い意向を確認し、希望に添ったケアが実 践できる体制を整えることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行う。定期的に勉強会を開き、想定をいくつか挙げ、職員間で話し合うなど、全職員が対応できるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」とし、マニュアルにて意識付けを行っている。年2回の防災訓練では昼夜間を想定し実施している。地域総代等の参加協力を得ている。 (外部評価) 開設1年目の事業所のため、調査時点ではまだ1回しか防災訓練を実施していないが、年度内に2回目の訓練を予定している。災害対策マニュアルを整備し、事業所のある国分地区や消防団、近隣の消防署と防災協定を締結し、緊急時の相互の協力体制を約束している。訓練には利用者や地域住民が一緒に参加している。隣接する老人保健施設には、食料品等の備蓄品を用意している。また、毎月10日を「防災の日」と定め、防災設備や避難経路の確認を行っている。	規定の防災訓練のほか、毎月自主的な防災への取り組みを継続していることは、職員の防災意識を高めるなど評価することができる。防災訓練での気づきや振り返りなど職員間で話し合う機会づくりを行い、専門家のアドバイスをもらうなど、夜間帯や緊急時など迅速に適確に対応できる取り組みを期待したい。今後も具体的な訓練の実施を継続させ、地域住民との連携や地域防災について運営推進会議で話し合うなど、支援者を増やし相互の協力体制づくりをすることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入浴中や排泄時などは特に配慮し、声の大きさなどに注意している。利用者様の人格を尊重し、集団の中での声かけや話す内容によっては場所を移動するなどプライバシーを傷つけないよう対応している。 (外部評価) 職員自身が家族の立場に立って考えることで、管理者は客観的視点から見た対応ができるよう職員に指導している。職員は利用者の人格を尊重し、分かりやすく丁寧な言葉づかいで声かけをしている。入浴や排泄時には羞恥心や尊厳に配慮した支援を心がけている。また、利用者の個人情報には十分に注意し取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様との関わりを多く持ち、信頼関係を築いていく中で、本人の思いや希望が表現できるよう関わっている。自己決定の困難な利用者様へは日頃の仕草や表情から読み取り、対応できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様一人一人のADLや好みなどを理解した上でレクリエーションの参加の有無を確認したり、散歩等の希望があれば出来る範囲で対応している。又、調理や洗濯物などの作業へも意欲的に参加できるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人の好みに合わせた、衣服選びなどの援助を行い、気持ちよく日常生活が過ごせるよう支援している。月2回の散髪日を設けたり、季節に合わせ衣替えをし、季節に合った服装ができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様に調理、盛り付け、食器洗い等に参加していただき、職員と一緒に準備をすることで食事作りを楽しんでいただく。毎月1回食事会を設け、利用者様の希望に沿った献立を立て、調理しテーブルを囲み楽しみながら食事をされている。 (外部評価) 母体病院の管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成している。食材は法人で一括で購入し、利用者の生活習慣を取り入れて味見や調理を手伝ってもらいながら、職員が調理している。毎月ある食事会には、利用者の希望を取り入れた特別メニューを利用者と一緒に買い物に出かけ用意することが利用者の楽しみになっている。利用者が子供に家庭の味を伝えるような温かい関係もできており、調理や家事を手伝ってもらうことにより利用者のやりがいを見出しながら、生き生きとした笑顔を引出すことにも繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士による献立表をもとに調理し、利用者様の状態に合わせて提供している。食事量はその都度確認し記録に残し把握している。水分は毎食コップ1杯を目標とし、その他活動後など提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人一人に声かけし、見守り、介助にて口腔ケアを実施しており、夜間は義歯を預かり毎日消毒している。口腔内のトラブル時には歯科衛生士と連携し治療を図っている。口腔ケアセットは毎週1回消毒し清潔保持に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様の状態に応じ、声掛けや定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄でパット使用の軽減が出来るよう支援を行っています。 (外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、トイレでスムーズに排泄できるよう支援している。排泄時には、利用者の羞恥心や尊厳に配慮した介助を心がけている。家族の出された意見から、パットなど排泄用品の使用の検討を重ね、トイレ誘導をすることにより使用頻度が減り負担の軽減に繋がり喜ばれたこともある。トレーニングパンツを使用することで排泄が自立に繋がり、プライドや自信が保たれている利用者もいる。利用者の身体機能や状態を見極めながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでおり、トイレ誘導により下肢筋力が向上したり自立に繋がった支援が実感できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の排便を把握し、便秘薬の服用や水分補給、日常の運動を行い便秘解消に努めています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者様の体調や状況に応じ、気持ちよく入浴できるよう支援しています。 (外部評価) 各ユニットに個別浴槽が設置され、利用者の希望を聞きながら週3回を基本として入浴することができる。入浴できない場合には、清拭をするなど利用者の清潔保持に努めている。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、声かけのタイミングや誘い方を工夫したり、利用者毎の馴染みになりつつある担当者が着替えを介助したりする工夫をしている。また、職員間で入浴を嫌う原因を考えたり、どうすれば安心して入浴してもらえるかアイデアを出し合ったりするなど、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。シャワーの使用をやめ、湯を桶でかけるようにしたところ入浴を嫌わなくなった利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の状況に応じ、ベッドや寝具、温度調整など気配りし気持ちよく良眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員間の申し送りを的確に行い、内服薬表を確認し誤薬のないよう全職員が内容を把握するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様の状況を把握し、無理のないよう家事を行って頂き、役立つことの喜びを感じ生活する気力、楽しみを持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様の希望にそって、散歩や外気浴などを行う。また毎月2回ドライブや買い物レクを行い季節を感じていただき、気分転換できるよう支援している。 (外部評価) 利用者の希望に沿って、日常的に散歩をしたり中庭で外気浴やお茶を飲んだりするなど、気分転換が図れるよう工夫している。月2回外出計画を立て、ドライブやおやつなどの買い物に出かけられるよう支援している。外出先では顔馴染みの地域住民と声を交わすことがあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは事務所で預かり、必要なときに職員管理のもと、買い物に行かれる。自分で買い物する楽しみを感じていただく。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望時、家族様に電話をかけたり、手紙を書いたり出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、台所は互いに協力できるように広めの空間をつくり、トイレや浴室は利用中に戸を閉め利用者様の不快感を招くような刺激を与えないようにしている。	
			(外部評価) 同じ法人の運営するグループホームを参考にして、随所に利用者が生活しやすいよう工夫された事業所作りをしている。天井が高く広々とした各スペースには自然光がふんだんに差し込み、明るく解放感がある。衛生面にも配慮し、空気清浄システムを導入するなど利用者が気持ち良く過ごせるよう工夫している。利用者は食卓で食事を摂る時以外は思い思いの場所で自由に過ごしており、作業をしたりおしゃべりを楽しんだりする様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 夕食後、居室で過ごされる方は一人でくつろいでいただき、利用者様同士で過ごされる時間は職員はできるだけ入らないようにし見守りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅で使用されていた備品や寝具類を持参していただき、家にいた時と同じ状況に近づけるようにしている。	
			(外部評価) 居室にはクローゼットやベッド、エアコン、空気清浄器等が備えられており、身の回りの物だけを持ち込み利用できる環境が整えられている。利用者には使い慣れた物や愛着ある物を持ち込めることを伝えており、位牌や寝具等を持ち込み居心地よく過ごせる空間づくりをしている。事業所内や居室に生け花をしてくれる家族もおり、季節や温かみを感じることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 無理のないように調理の盛り付けや味付け、洗濯物のたたみや干すなど出来る範囲でお手伝いしていただく。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890200342
法人名	医療法人 陽成会
事業所名	グループホームヒロセ ドゥーエ
所在地	愛媛県今治市国分7丁目5番11号
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27 年 1 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人を大切にその人の持っている力やその人のペースで生活が送れるよう、職員全員が共通意識を持って、日々研鑽に努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今治市内に母体の医療機関があり、事業所のある国分地区で老人保健施設や他のグループホームを運営している。法人として2か所目のグループホームであるため、事業所名の「ドゥーエ」は、イタリア語で「2」という意味であるとして取り入れている。母体病院や訪問看護ステーションなど、24時間体制での医療連携が取れており、急変時にも迅速に対応することができるため利用者や家族は安心感がある。開設1年目の事業所であるが、利用者の希望に応じたのびのびと生活を送る利用者の様子を伺うことができた。職員自身が家族の立場になって考えることで、管理者は客観的視点から見た対応ができるよう職員に指導しており、利用者に尊厳ある対応ができていことは評価することができる。母体法人の実績を活かした運営ができており、今後も事業所独自で地域と繋がりながらサービスの向上を期待できる楽しい事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームヒロセ ドゥーエ

(ユニット名) チェリー

記入者(管理者)

氏 名 菅 裕美

評価完了日 平成 26 年 12 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 医療法人陽成会の基本理念である「相手を思いやる和の心と誠意を持って接する」を毎日の朝・昼礼時で唱和し、職員間で意識付けをしている。当施設の理念「地域と共にあなたと共に笑顔の暮らし」を掲げ、地域に根ざした笑顔が絶えない生活の場を目指した個別ケアに努めている。 (外部評価) 開設時に職員間で話し合い、事業所独自の理念を作成し各ユニットに掲示し職員間で共有している。毎日の朝礼時等に法人の基本理念と共に唱和している。介護計画やケアは理念を基にして検討や振り返りを行い、日々の実践に繋げている。事業所のある住み慣れた地域での生活が継続できるよう、地域との関わりや個々の役割、趣味等の生活習慣を大切に生き活きと過ごせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の国分寺・綱敷天満宮に初詣・地方祭（神輿来訪）等実施。 又、自治会に加入し、小学生の「見守り隊」として地域に貢献している。 (外部評価) 事業所は開設1年目であるが、隣接する老人保健施設や同法人のグループホーム等で築いてきた地域との繋がりを活かし交流をしている。日頃から散歩時に地域住民と挨拶や会話を交わしたり、地元に住んでいる家族等がボランティアとして花を活けてくれたりするなど、利用者の日常生活に地域住民との交流がある。地域の小学生との関わりの場を設けるための下校時の見守り隊活動は、利用者の楽しみと同時に地域貢献にも繋がっており、小学生が下校後に事業所へ遊びに来てくれるようになっている。また、地域の文化祭に参加したり、保育園児との交流をしたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 関連事業所と連携して、災害時連携等地域住民と行っていく。保育園や小中学校との交流等により理解されるよう活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、行事報告、研修報告、意 見苦情報告等行い、意見交換の場になっている。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、地域住民、民生委員、婦人 会、市担当者等の参加を得て開催している。会議では活動報 告を行うほか、参加者から率直な質問が出されるなど意見交 換をしたり、災害などの地域情報を得る場としても活用され ている。参加できなかった家族には、家族会等で報告した り、職員には会議録を閲覧させたりしている。会議で出され た地域情報を活かし、外出行事に取り入れるなど運営に反映 することができている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議においてケアサービスの取組みを報告してい る。又、参加者からの貴重な意見が機会でもあり、日頃より 話しやすい環境づくりに努めている。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加し、事業所の利用状況や実情 を伝え情報や助言をもらっている。地域包括支援センターと は、気軽に相談できる関係が構築されている。市などの主催 する研修会や地域ケア会議に参加しており、他事業所との情 報交換や交流をするなど、良好な関係を築いている。また、 保健所から発信される情報を活用したり感染症予防対策の研 修へ参加したりするなど、職員のスキル向上や運営に活かし ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 法人全体で拘束をしないケアに努めており、WEBを活用し て情報の共有に努めている。利用者の身体状況・日常生活を 十分観察して拘束をしないケアを実施している。	
			(外部評価) 法人共通のマニュアルを整備し、職員が拘束の具体的な行為 など正しく理解できるよう勉強会を実施している。事業所の 近くには線路や国道があるため、利用者の安全面を考え各ユ ニット出入り口にテンキーロックを使用しているが利用開始 時に家族に説明し了承を得ている。そのほかは拘束の可能性 がある行為は行っていない。管理者は職員に馴れ馴れしい言 葉づかいを注意し、尊厳を持った支援ができるよう指導して いる。管理者は業務を行う職員の精神面などの状態を察し、 健全なケアが実践できるように取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 物理的・精神的虐待・言葉による拘束も虐待の一部と認識し、職員同士注意をはらっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、2名の入居者が成年後見制度を活用しているが制度の理解度は個人差があるのが現状であり、今後の勉強会、カンファレンスを持ち、全職員が理解するように努めたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には必ず2名以上で対応し、十分な話し合いをした上で、利用者様及びご家族様の不安や疑問点を検討し、ご理解、ご納得いただけるよう努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時や電話にて日常の様子をお話し、意見・要望をお伺いしている。意見箱・アンケートを実施し、意見があれば職員間で共有し、サービスの改善に努めている。	
			(外部評価) 家族の面会時や伝達ノートを利用して意見を聞くようにしている。毎月少人数で家族会を開催し情報交換をしているほか、年2回多くの家族の参加のもと家族会を開催している。また、家族アンケートを実施し、満足度や意見、要望を出してもらい話し合いをするなど、管理者は意見を運営に反映させる取り組みをしている。家族から「日頃からなるべく体を動かして欲しい。パッドなどの経費負担の軽減をお願いしたい」などの意見が出され、連絡ノートで共有して話し合うなど、改善できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 老健との合同ミーティング、施設内ミーティングにおいて意見交換を行っている。又、法人の運営委員会にて提案し、代表者にも意見が届き反映されている。 (外部評価) 全体会や部署会などで職員は意見を伝えることができる。日頃から管理者は職員の悩みなどの相談に応じたり、希望を取り入れたシフトを組むなど、職員と話しやすい関係づくりをしている。事業所では人事考課制度や資格手当などを採り入れ、職員がやりがいを持ちながら働きやすい職場環境の整備に努めている。会議の開催時などには、職員一人ひとりの気付きや運営に関する伝達事項をノートに記録したり会議録を作成したりするなど、話し合われたことを振り返れるようにしている。職員の年齢層は様々であるが職歴などを尊重し合い、職員間で相互に良い所に視点を向けながらサービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者、職員が出席する全体会等に参加し、職員と意見交換する機会を作っている。又、ホームへ訪問し職員個々の意見も積極的に聞いている。 課業評価にて自己計画、反省として各自が向上心を持って職場環境の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修参加時に意見交換など交流を図り、サービスの向上に努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 定期的開催される交流会に参加し、情報の交換をすることによって、同業者ならではの悩みの解消につなげている。地域全体でネットワークの構築に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様の思いを十分に聞き、グループホームの理念通り安心していただけるよう努力する。又、ご家族・担当ケアマネジャーの協力を得ながら、ご本人が安心して暮らせるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用開始時に、ご家族様の要望に耳を傾け、出来る限り、利用者様のご意向に沿ったケアをすると共に、ご家族様から信用いただけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族の意見を十分伺い、又、担当ケアマネジャーとも話し合い助言を受けながら、サービス提供がふさわしいかどうか検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩としての関係を持つことを心掛けて接する。家族的な関係を少しでも築けるよう努力している。調理、生活面でも利用者様と共に行い、教えていただいている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会や面会時、ホームでの生活状況や本人さんが希望されている事など伝え、家族との絆を大切にしながら、本人に教えてもらったり、助けてもらったりする場面を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の方の協力を得られるよう声掛けをしている。ご本人が希望される場所については、ドライブ等利用している。又、馴染みの方については面会あればご家族にも報告している。面会や一緒の外出・外泊など、ご家族やご友人との関わりが続けられるよう職員からも促している。 (外部評価) 利用開始前に利用者や家族から馴染みの関係を聞き取り、アセスメントシートや気付きシートに記録し、職員は情報を把握している。女性の利用者が多く、これまで培った調理などの家事の生活習慣を継続できるよう支援している。花を育ててくれたりアートフラワーを持ってきてくれる友人がいる利用者もいる。利用者のしたいことはできる限り継続できるよう支援している。また、月2回の外出時などに、馴染みの人と出会い会話を交わすこともある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様それぞれの個性を尊重しながらも9人が良い関わりができるように気配り、きっかけづくりなど配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も継続的な関わりを必要とする利用者や家族には関係を断ち切らない付き合いを大切にしています。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様の思いや意向を尊重しコミュニケーションを取りながら寄り添ったケアを心掛けている。 (外部評価) これまでに利用者や家族等から把握した情報はアセスメントシートや気づきシート、連絡ノート等に記録し職員間で情報を共有している。情報を基にして日常生活の中で利用者が何を求めているかを理解できるよう努めている。思いを伝えられない利用者には担当職員が表情やしぐさから察したり、耳が遠い利用者には筆談したりしている。独り言の多い利用者には職員が寄り添い背中をさするなど、利用者が安心できる対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族に生活歴や自宅の様子をお聞きし把握に努めている。馴染みのある物など、ご家族に協力して頂き居心地のよい空間作りに努めている。全職員が生活歴を十分に把握し、個々のサービス利用に役立てるよう努力している。回想法的なケアも行っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ある日突然に心身状況が変化することがある事を認識して、一人ひとりの現状把握を行っている。食後の休息等利用者様のペースに合わせ支援している。生活のリズムを守る為、一日の流れはやや決まっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 全職員が毎日の気付きシートを使用し、ケアプランに連動している。毎月のカンファレンスに於いて、ご本人・ご家族の意見も伺い、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に1回、又は必要に応じ評価し、計画を見直している。 (外部評価) 利用者毎の担当職員が、日頃の様子や課題を気付きシートや介護記録等に記録し、職員間で情報を共有している。利用者の思いや家族等の意見を踏まえ、利用者一人ひとりの課題や意見、アイデアを職員間で出し合い、担当職員を中心に介護計画を作成している。担当職員は定期的にモニタリングを実施し、介護計画のまとめなど総合評価は各ユニット責任者が実施している。また、職員は介護計画の作成に直接携わることで、計画を十分に理解したケアが実践できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者様一人一人の日常の様子や変化など個別記録に記入し介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 隣接の老健との交流をし、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣の国分寺、綱敷天満宮への参拝。保育園の園児との交流。地区の自治会主催の行事にも参加。地域との交流を図ると共に、利用者様が安全で豊かな暮らしができるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医療機関との連携も取れており、希望者がいれば定期的な訪 問診療を受けることが出来る。又、24時間緊急体制も確保さ れ、医師からの指示で的確な対応が取れることから、利用者 様の安心感に繋がっている。本人希望のかかりつけ医とも連 携を図り、本人にあった医療が受けれるようにしている。 (外部評価) 入居後に利用者や家族が希望して、母体病院やクリニックを かかりつけ医としている利用者が多い。母体病院とは訪問看 護ステーションなど24時間体制での医療連携が取れており、 急変時にも迅速に対応することができるため利用者や家族は 安心感がある。また、利用者や家族が希望するかかりつけ医 や専門医を家族の協力を得て受診することもでき、歯科との 連携も取れている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の状態変化が見られた際には記録に残し、職員間で情 報共有し、広瀬クリニック、訪問看護ステーションへ連絡を 取り、指示に従って受診を受けられるよう連携を図ってい る。24時間医療機関との連携体制が整っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医と連携し必要な情報交換を行い、早期退 院に向けて話し合うと共に、退院後、復帰した場合、利用者 の状態を報告するなど、医療機関との連携をとり、安心して 過ごせるよう支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に説明を行い、本人の意向を伺っている。体調変化が あればその都度、ご家族、ご本人と話し合い方針を共有して いる。又、職員の看取りに対する知識を深める為に勉強会を 実施し、チームケアができるよう体制を整えている。医療機 関との連携を図っていく。 (外部評価) 「看取り介護に関する指針」を整備し、対応できる内容を入 居前に利用者や家族に説明し、意向を確認している。開設1 年目のため事業所での看取り経験はなく、現在重度化してい る利用者はいない。状態の変化に応じて、利用者や家族の意 向を確認し医療関係者や家族と連携しながらチーム体制での 支援に取り組む予定としている。職員は外部研修や母体病院 の勉強会に参加するなど、利用者が重度化した場合に備えて いる。	母体病院等との連携が取れているため、利用者や家族、 職員には安心感があるが、職員は夜間や緊急時など落ち 着いて対応できるか不安があるため、勉強会を重ねて開 催したり看取り経験のある職員を中心に話し合いをし たりするなど、職員の不安の軽減を図ることを期待した い。また、状態の変化に応じて、医師を交えて利用者や 家族等と話し合い意向を確認し、希望に添ったケアが実 践できる体制を整えることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルに沿って行う。定期的に勉強会を開き、想定をいくつか挙げ、職員間で話し合うなど、全職員が対応できるよう取り組んでいる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月10日を「防災の日」とし、マニュアルにて意識付けを行っている。年2回の防災訓練では昼夜間を想定し実施している。地域総代等の参加協力を得ている。 (外部評価) 開設1年目の事業所のため、調査時点ではまだ1回しか防災訓練を実施していないが、年度内に2回目の訓練を予定している。災害対策マニュアルを整備し、事業所のある国分地区や消防団、近隣の消防署と防災協定を締結し、緊急時の相互の協力体制を約束している。訓練には利用者や地域住民が一緒に参加している。隣接する老人保健施設には、食料品等の備蓄品を用意している。また、毎月10日を「防災の日」と定め、防災設備や避難経路の確認を行っている。	規定の防災訓練のほか、毎月自主的な防災への取り組みを継続していることは、職員の防災意識を高めるなど評価することができる。防災訓練での気づきや振り返りなど職員間で話し合う機会づくりを行い、専門家のアドバイスをもらうなど、夜間帯や緊急時など迅速に適確に対応できる取り組みを期待したい。今後も具体的な訓練の実施を継続させ、地域住民との連携や地域防災について運営推進会議で話し合うなど、支援者を増やし相互の協力体制づくりをすることを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ご家族の意向に沿った呼び方など、利用者様一人ひとりに応じた配慮をしている。特に入浴中や排泄などは個々の希望に配慮している。 (外部評価) 職員自身が家族の立場に立って考えることで、管理者は客観的視点から見た対応ができるよう職員に指導している。職員は利用者の人格を尊重し、分かりやすく丁寧な言葉づかいで声かけをしている。入浴や排泄時には羞恥心や尊厳に配慮した支援を心がけている。また、利用者の個人情報には十分に注意し取り扱いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者様の思いを理解するよう心掛けて関わっている。表現や自己決定が上手くできない利用者様にも、表現やしぐさなどを見て思いが伝えられるよう援助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活動作の状況に応じて個別化を行い、利用者様の動きに合うように支援をしている。一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の着替えについては利用者様と共に確認をして好みに合わせている。又、月2回の理美容の便宜を図っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月1回の食事会、外食は利用者様の要望に応え行っている。 盛り付け、後片付けなどを力に応じて行ってもらえるように支援している。	
			(外部評価) 母体病院の管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成している。食材は法人で一括で購入し、利用者の生活習慣を取り入れて味見や調理を手伝ってもらいながら、職員が調理している。毎月ある食事会には、利用者の希望を取り入れた特別メニューを利用者と一緒に買い物に出かけ用意することが利用者の楽しみになっている。利用者が子供に家庭の味を伝えるような温かい関係もできており、調理や家事を手伝ってもらうことにより利用者のやりがいを見出しながら、生き生きとした笑顔を引出すことにも繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1回の体重測定によりBMI値を出し、変化に注意し管理栄養士にも相談をし確認している。水分量は毎食時確認している。バイタルチェック表にて個々の状況を把握している。水分摂取には十分注意を払い、職員からの声掛けも随時行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、一人ひとり声掛け・見守り・介助にて、口腔ケアを実施している。又、歯科衛生士による個別口腔ケア指導も行われている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう声掛けや介助を行っている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、トイレでスムーズに排泄できるよう支援している。排泄時には、利用者の羞恥心や尊厳に配慮した介助を心がけている。家族の出された意見から、パットなど排泄用品の使用の検討を重ね、トイレ誘導をすることにより使用頻度が減り負担の軽減に繋がりが喜ばれたこともある。トレーニングパンツを使用することで排泄が自立に繋がりが、プライドや自信が保たれている利用者もいる。利用者の身体機能や状態を見極めながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでおり、トイレ誘導により下肢筋力が向上したり自立に繋がった支援が実感できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜・食物繊維の多い食事、適度の運動（散歩等）を習慣づけている。又、朝一番の水分補給・夜間の水分補給の声掛けをしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じた入浴を基本とし、入浴が楽しい時間となるようケアに努めている。入浴時間も利用者様の希望に沿った時間にしている。又、気分転換を図る為、介護老人保健施設ヒロセの湯浴施設で入浴希望される方もおられる。	
			(外部評価) 各ユニットに個別浴槽が設置され、利用者の希望を聞きながら週3回を基本として入浴することができる。入浴できない場合には、清拭をするなど利用者の清潔保持に努めている。入浴を嫌う利用者には無理強いをせず、声かけのタイミングや誘い方を工夫したり、利用者毎の馴染みになりつつある担当者が着替えを介助したりする工夫をしている。また、職員間で入浴を嫌う原因を考えたり、どうすれば安心して入浴してもらえるかアイデアを出し合ったりするなど、利用者一人ひとりに合わせた入浴支援に努めている。シャワーの使用をやめ、湯を桶でかけるようにしたところ入浴を嫌わなくなった利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様の状況に応じ、ベッドや寝具、温度調整など気配りし気持ちよく良眠できるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員間の申し送りを的確に行い、内服薬表を確認し誤薬のないよう全職員が内容を把握するようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎朝、体操の時間を設けている。「いつまでも元気でいたい」と意欲的に参加されている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日頃より外出の希望は出来るだけ対応できるように、買い物などの日を設けている。自ら希望を言われない方は日常の会話から行きたい場所を聞き、行けるように援助している。 (外部評価) 利用者の希望に沿って、日常的に散歩をしたり中庭で外気浴やお茶を飲んだりするなど、気分転換が図れるよう工夫している。月2回外出計画を立て、ドライブやおやつなどの買い物に出かけられるよう支援している。外出先では顔馴染みの地域住民と声を交わすことがあり、利用者の楽しみの一つとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 小遣いは事務所で預かり、必要なときに職員管理のもと、買い物に行かれる。自分で買い物する楽しみを感じていただく。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望時、家族様に電話をかけたり、手紙を書いたり出来るよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居間、台所は互いに協力できるように広めの空間をつくり、トイレや浴室は利用中に戸を閉め利用者様の不快感を招くような刺激を与えないようにしている。 (外部評価) 同じ法人の運営するグループホームを参考にして、随所に利用者が生活しやすいよう工夫された事業所作りをしている。天井が高く広々とした各スペースには自然光がふんだんに差し込み、明るく解放感がある。衛生面にも配慮し、空気清浄システムを導入するなど利用者が気持ち良く過ごせるよう工夫している。利用者は食卓で食事を摂る時以外は思い思いの場所で自由に過ごしており、作業をしたりおしゃべりを楽しんだりする様子を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用スペースの中でも色々な場所、個々に気に入った場所で休めるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 自宅の様子を確認するなどし、馴染みの物や家具の配置など落ち着いて過ごせる空間作りに努めている。 (外部評価) 居室にはクローゼットやベッド、エアコン、空気清浄器等が備えられており、身の回りの物だけを持ち込み利用できる環境が整えられている。利用者には使い慣れた物や愛着ある物を持ち込めることを伝えており、位牌や寝具等を持ち込み居心地よく過ごせる空間づくりをしている。事業所内や居室に生け花をしてくれる家族もおり、季節や温かみを感じることができた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる事、できない事の見極めをし、利用者様ごとにケアプランにあげ、場面作り・見守りのケアの中で洗濯物干し・たたみ、食事の準備等積極的にされ自信に繋がっている。	